

各 位

党派を超えて国家的課題を追求する

**公益財団法人協和協会
時代を刷新する会**

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
環境技術委員長 坂 本 忠 彦
両団体専務理事 清 原 淳 平

環境技術委員会のお知らせ (第341回)

日 時 平成29年11月21日(火) 午後1時半～4時

場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議 題 1、「環境問題について、昨今、思うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、『環境技術関連ニュース NO.164』

解説 中島稔科学技術部会長

3、人工光合成によるCO₂の有用化学物質変換可能性

解説 東京工業大学理学院 前田和彦准教授

報 告 去る10月19日開催の第340回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、思うこと」と題して開会挨拶がありました。この週末に季節外れの台風が上陸するようだ。外気はかなり寒くなったが海水温は30℃近くあるらしく、これによって台風が発達する。これも温暖化の影響かもしれない。さて、本日のテーマは放射性廃棄物の処理だが、土壌の除染がすべて終わる見通しは今のところ立っていない。このような技術が実用化されれば除染も進むだろう。

次に、清原淳平専務理事より、当日の講師・理化学研究所光子工

学研究領域・緑川克美領域長の経歴紹介がありました。次に、緑川領域長より、「放射性廃棄物の分離・資源化」について解説がありました。出力100万kwの原発からは20tの使用済み核燃料が出る。今回の研究は、その中の有害物質を取り除き、有用物質を活用する狙いである。例えば、パラジウムには質量が102～110までの同位体がある。このうち有毒なものだけを除去できればよいが、現在の技術では不可能である。そこで、パラジウムを蒸気化させ、レーザー照射すると、特定の同位体がイオン化し電荷を持つ。電荷を持つと電極に集まってくる。これによって奇数の物質と偶数の物質を分離する。分離係数は99.7%になった。抽出した奇数同位体は、加速器における反応によって安定化し、再び資源として活用する。当初は3本のレーザーを使っていたが、2種類でも反射させることで反応させることができた。また、円偏光ではなく、直線偏光のレーザーの方が効率が上がることも分かった。ただし、実用化までは、まだ改善すべき点が多々ある。レーザー照射数を30倍にする取組など、今後も研究を継続していく。

次に、9月に行われた「深海2017展」の見学会について、参加者より感想及び意見交換がありました。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.163』の解説がありました。今回は、○ビニルハウスの昇温を抑制する反射型フィルム。○気候変動観測衛星、今年度中に打ち上げ予定。○2050年までに排ガスCO2 90%削減を目指した新型エンジン。○中性化しにくい新型コンクリート。○JOGMEC、海底熱水鉱床から鉱石を安定的に引き揚げる実験に成功。○色の変化で爆発物を発見する技術。テロに使われる過酸化水素に反応する色素を使って簡単に検出できる。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、11月21日(火)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は三千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp